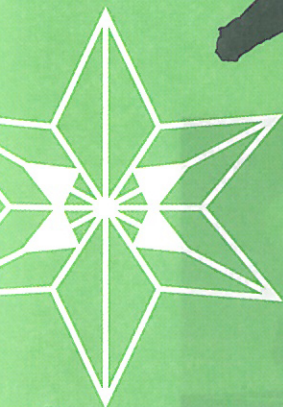


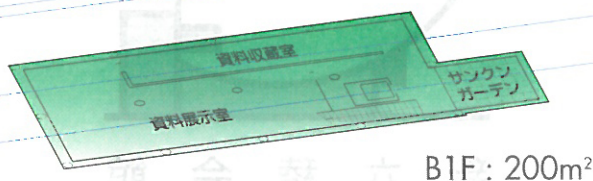
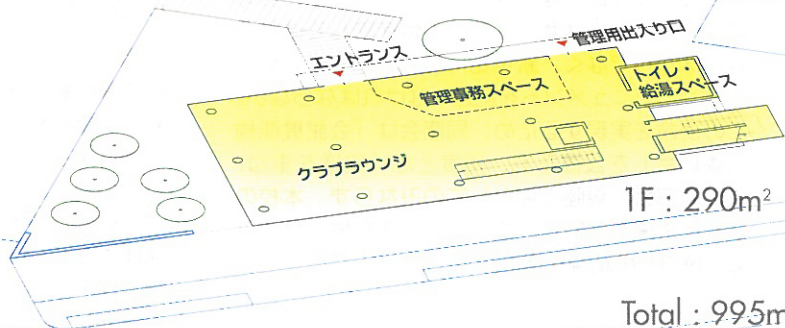
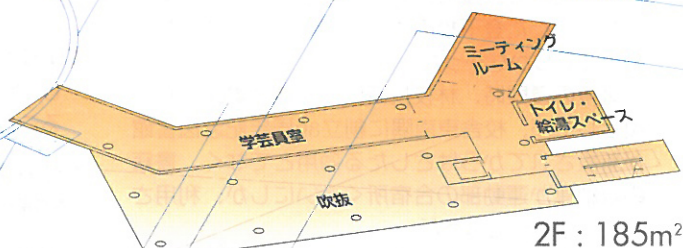
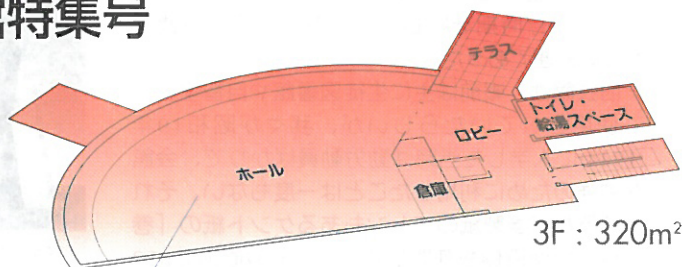
六稜舎報

新六稜会館特集号



INDEX

- 巻頭言
新六稜会館によせる想い
山本次郎 2
- 母校はいま…
【図解】校舎改築のすべて
編集部 4
- 随想
「六稜新聞」創刊の思い出(2)
生島幹三 6
- The Millennium Plan
これが新六稜会館だ
編集部 8
- 母校はいま…
新校舎フロアマップ
編集部 10
- 会務報告+会計報告 11
- 国際交流基金 11
- 六稜NEWS 12
47期同期会、六稜広島支部結成、ラ
グビー部優勝、タイムカプセル水
浸し、村上先生百歳
- 母校の窓 14
おわび、夢不幸、全国大会出場激励
金、文化芸術祭、クラブだより
- 六稜イエローページ 15
- われら六稜人 16



NO.34
2000.2.15

新六稜会館によせる想い

新六稜会館建設委員長／六稜同窓会副会長
山本次郎(62期)

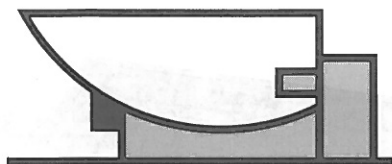
旧六稜会館は旧校舎と同じく、昭和6年(1931)に完成し、一昨年、67歳の寿命を終えた。奇しくも、我々62期生とこれらの建造物とは同年齢であり、ともに生存時期を同じくしており、その命運は我々の命運であった。

旧会館は、戦前は主に生徒図書館や自習室として使用されていたらしいが、我々が昭和19年(1944)に入学した当時は勤労働員ばかりで、会館を勉強のために利用したことは一度もない。それどころか三菱製紙の二トンもあるケント紙の「巻取り」が何百個も疎開していて、終戦直前のB29大空襲で会館が燃え出したときなど、消火作業に従事していた62期生が負傷したくらいである。つまり、当時の六稜会館は生徒の修学とは何の関係もなく、ただ登下校のさい、前を素通りするだけの存在でしかなかった。

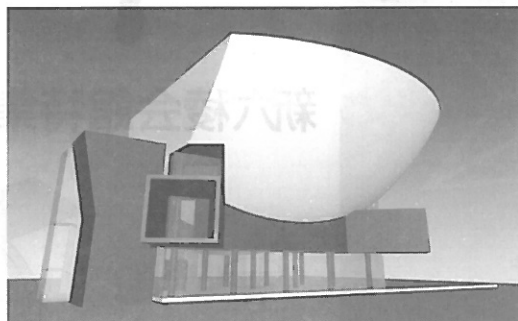
戦後の復興時、林校長時代に生徒図書館として復活したが、校舎東南隅に創立80周年記念図書館が新設されてからはさしたる効用とてなく、書籍の収納庫が運動部の合宿所くらいにしか、利用されていなかったようだ。

十五年戦争が介在していたとはいえ、先人が心をこめて建設した同窓会館は、実は本校生徒にとって十分な貢献を果たしたものとはいえなかった。

新しい世紀を迎えるのと時を同じくして、同窓会は新六稜会館を建設することになったが、この建設にあたっては我々は前車の轍を踏んではならないばかりでなく、新世紀に充分対応できる機能をもったモニュメントを創造しなければならない。この使命を実現するため、同窓会は「会館機能検討委員会」を設置して、何度となく論議を重ね、単に同窓会の親睦の場としてのみならず、本校の伝統と未来を包容し、さらにこれを発展させるための幾つかの結論を得た。



新 六 稜 会 館



それは、

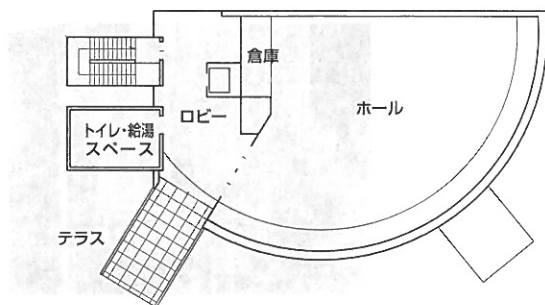
- ①急成長するインターネット社会を見据えて、新しい文化の流れをつくり、その交流の場を提供すること
- ②本校が所蔵する貴重な文献、教育関係資料を整理し、あるいはこれをデジタル化して、適宜公開すること
- ③佐伯祐三や野間宏らに代表される芸術作品、創作物等を展示する場を設けること
- ④同窓生、教職員、生徒のみならず、府民の皆さんをも交えた、地域に開かれたオープンな会館としての運営を試みる
- ⑤ギャラリー、セミナー等を企画するなど、要するに北野文化の発信、受信基地とすること

大略、以上のような構想で、同窓会は新六稜会館の未来の軌跡を描こうとしている。六稜魂は今や新しい棲み家に移り移ろうとしているのである。

世情はまことに不安定で、日本と日本人はどこへ行くのかという時代に、我々六稜同窓生はこのような確固たる夢をもって、自らの目的に向かって邁進することができる。

想えば、わが北野は、単一化を教えない、モットーを押しつけない学校であった。同窓会も、ざらざらしない、眼にみえないアイデンティティを特徴としていた。しかし、同時に、戦後の占領軍軍政部のジョンソン旋風などに対しては正論をもって抵抗し、旧来の伝統と校名を維持して現在に至った、というスピリットをもつ。

時あたかも新世紀を迎えるこのときに、またもやわが校の真価を発揮する機会がやって来たというのが、私の率直な想いである。

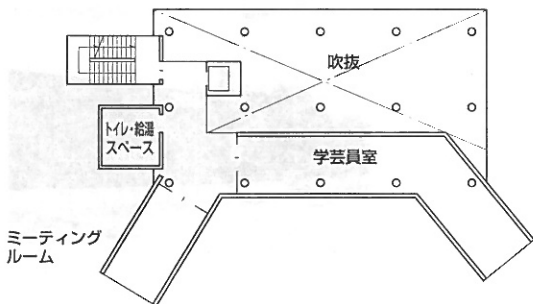


3F
320m²

Hall 天空 浮遊するホール

可能性に満ちた未来

培われた北野文化を
講演・発表・ワーク
シヨップなどの形で
後世に伝えてゆく
ための空間であり、
祝宴・会合などにも
用いられる、
同窓生の交流の
ための空間

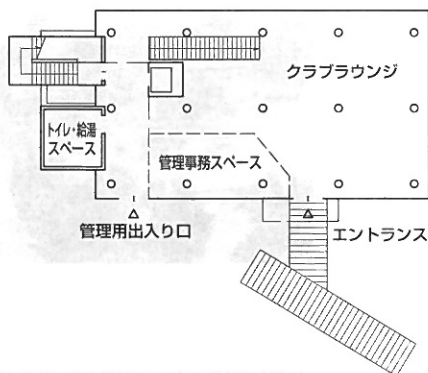


2F
185m²

Station 地上 透明なステーション

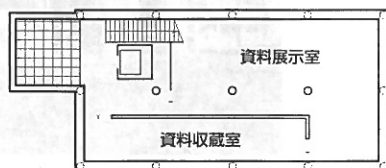
活動的な現在

過去と未来をつなぐ
北野文化の活動拠点。
さまざまな情報を
整理し、加工して
多くの人々に送り届け、
またその反応を受け止める。
展示と交流の企画をも担い、
情報ネットワークの中枢となる、
いわば頭脳のような
役割を果たす空間



1F
290m²

サンクン・ガーデン



B1F
200m²

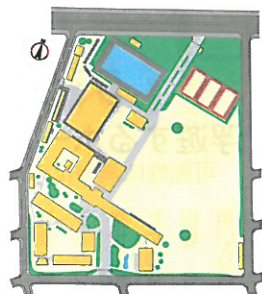
Gallery 大地 埋蔵されるギャラリー

秘かに息づく過去

これまでの
北野高校と
同窓生に関する
資料の収集・
保存・展示の
ための空間

【図解】校舎改築のすべて

編集部



①改築前



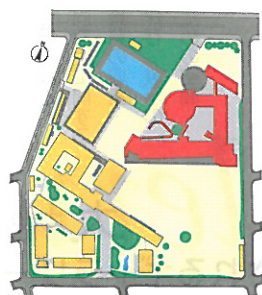
②着工
1998.5～

- ・工事用フェンスが張り巡らされる。
- ・東部・工事車両用搬入出口できる。



③整地
1998.5～7

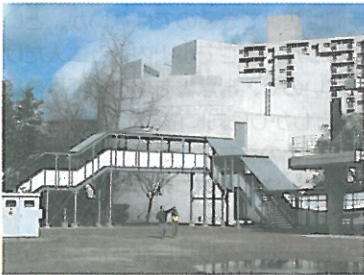
- ・旧六稜会館(旧図書館)解体。
- ・バックネット、テニスコートなどの撤去。



④第1期工事竣工
1998.8～1999.11

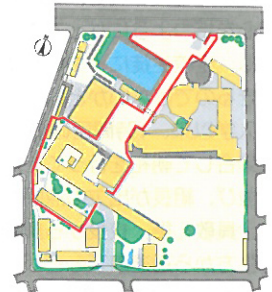
- ・新校舎東半分(図書館棟、多目的ホール、管理棟、および、普通教室棟の東半分)竣工。





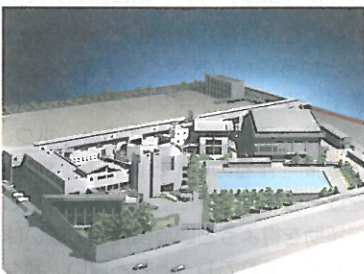
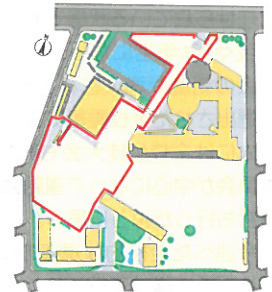
- ・プール、体育館へは陸橋で移動。

⑤第2期着工
2000.5～



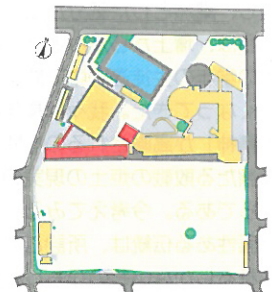
- ・講堂の撤去。
- ・旧校舎西側の撤去。
(弾痕壁は保存)
- ・第一新館の撤去。
- ・部室棟(1)の撤去。

⑥第2期工事
2000.8～2001.9



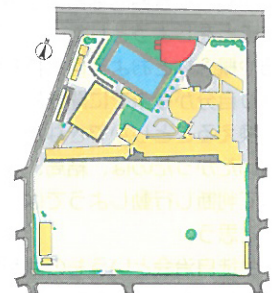
- ・新校舎西半分竣工。
- ・残存旧校舎の撤去。
(第2新館は除く)

⑦改築完了
2002.1～2002.12



- ・プール北側に竣工予定。

⑧新六稜会館
2003.1～



「六稜新聞」創刊の思い出（2）

生島幹三(60期)

秋が進むにつれて、私は新聞に対し新たに積極的な関心を持つようになってきた。私が新聞に見出した役割は、全校生徒に一つの共通の広場を提供することができるのではないかということであった。

入学以来、1時間目の前に全校生徒・教職員が校庭に集合して朝礼を行ってきた。各クラス毎に縦に一列に並び、組長が出欠の点呼をし、壇上に上がった校長に全員敬礼後、校長から訓辞があった。次いで、他の先生方から通達事項などが伝達された後、徒手体操でしめくられたと思う。1946年からは長年のこの朝礼が廃止されて、学校生活で全校を一つに束ねるものがなくなり、敗戦後の虚脱感が漂う中で規律がゆるむに任せられている状態であった。

我々が5年生になったこの年の1学期には、生徒自治会の制度が導入され、各クラス5名の委員中から1名選出された全校委員による全校委員会が成立し、学期末には全校生徒大会も開かれた。2学期には、自治委員会が中心になって運動会や学芸会のような行事の運営も行ったように思う。

今述べた全校的な規律のゆるみの問題は、2学期の終り近くに講堂で行われた全校生徒大会の主題としてとりあげられた。5年生の全校委員の何人かが次々に登壇して、「六稜魂を持って」と訴えて全生徒の自覚を促し、肅然とした気分が溢れたものであった。

私は、壇上から次々と「六稜魂」が連呼されるのを下の学年の生徒達の中で聞いていて、何か我慢ができなくなってきた。我々は長年散々「大和魂」とか「日本精神」が高唱されるのを聞かされ続けた末に、この惨憺たる敗戦の焼土の現実のただ中に立たされていたからである。今考えてみると、一つの組織が作ってきた個性ある伝統は、所詮このような形で表現され了解されるしかないものかもしれないが。

私は、そのまま閉会になろうとしているのを見てたまらなくなり、司会者に一言断わり壇上に上って、何とかもっと普遍的な言葉を用いて各人の自覚をうながすことをしようとした。しかし悲しい哉、哲学的な用語や概念などおおよそ何も持ち合わせなかった私は、やはり自分が今までに聞き知った古風な言葉で、多少言い換えることしかできなかったのである。その時私の言いたかったのは、結局、我々は常に自律的な主体として判断し行動しようではないか、ということであったと思う。

生徒自治会というものは制度的な組織である。それに反し、もっと日常的に直接的に全校生徒の各人に働

きかけて情報を提供し、各人の見解を表明し合うような共通の場所を新聞は提供できるのではないか、というのが私の考えであった。そこで小山内君と二人だけではどうにもならないので、趣意書を作り、部員募集の掲示を貼り出した。しかし一向に応募者が現われず、がっかりしていると、そのうち宮住敏君と西沢康雄君が来て、平田先生から一緒に三人で新聞部をやれと云われたから、というのである。

実は両君とはこれまで同じクラスになったこともなく交友の世界も全く違っていて、いわば初対面の人達だったので、いささか戸惑ったが、まもなくこの二人がそれぞれに私とは全く異なる優れた個性の持ち主であるとわかり、うん、これならできるぞ、と判断をつけた。堂々たる貫禄と大人びた社交性をもつ宮住君には編集長の役をひきうけてもらった。西沢君は計数が速く機敏な実行力の持主で、テキパキと仕事を推進してくれることになる。私にできることといえば、差し当たり論説委員という役どころで、原稿の校正とか国語上のチェックのような役は一手にひきうけるよ、と申し出た。

さて、宮住君は早速大胆な社交性を発揮して、新聞を作るならぜひ北野の大先輩である新聞界の長老、朝日新聞の上野精一さんにお会いして御助力を仰ぐべきだと主張し、我々は放課後連れ立って朝日新聞社へお訪ねした。もう社長の職は辞任された後だったと思うが、大店の御主人という風格の気さくな上野さんと、若々しく俊敏な御子息淳一さんが我々に応対してくださった。学校新聞を始めるとい話をすると、ホウ、しかし一体なんで新聞を作るのや、と聞き返された。脇から私が持論を逐一のべたように記憶する。何かもう少し具体的な御援助を得ようという宮住君の願いは叶わなかったが、私は、それでもっともと思い、我々に親切に対応してくださった御好意をありがたく思った。そしてお二人ともやはり我々の先輩だなという印象を強く受けて失礼した。これで、我々の企ては内輪だけの計画ではなくて公に知られたものになってもう後へは退けないぞという思いをかみしめた。

そこでまず、何とか自分達で印刷所をみつけなくてはとなった。戦災後まもない大阪のことである。そこで、全校生徒の中には自宅が印刷所で引き受けてもよいというのがあるかもしれないと思い、掲示を出して呼びかけてみると、幸い1年生の一人が申し出てくださった。早速、放課後、その印刷所へお願いに行った。印刷機の側で小柄なお父さんは、こちらの言葉に、た

だ「それで原稿はいつ持って来ていただけますか」とだけ言われた。油鍋は目の前に煮えているのに揚げる魚はこれから釣りに行かねばならないような、間の抜けた思いをさせられた。

この頃部員として4年生の赤松英幸君が出現したのは、およそジャーナリスティックなセンスを持ち合わせていなかった我々にとって、まさに救い主の到来であった。当時の部員の中で後年その道に進んだのが赤松君一人というところをみても、我々の直感は正確であったと思う。さらに小林英夫君が加わり、卒業を直前にした我々は大いに喜んだ。他に1年生の岡佑光君が入ってきた。「可愛いのが来た」と宮住君は大喜び。先日、岡君にクラス担任が平田先生だったことを初めて聞いて、先生の御配慮にあらためて感謝した次第である。他に5年生の地歴班の山元崇君に学術部関係の、体操部の山田文一君に運動部関係の記事の執筆を依頼したが、両君にはその他にもいろいろとお世話になった。

これだけのスタッフで創刊号の準備にとりかかった。12月中に大体の予定を立てておいて、昭和22年(1947年)1月に入って早々原稿の編集をして印刷にかかったように思う。「創刊の辞」として宮住君はまことに立派な文章を書いてきてくれた。西沢君も調査結果の原稿などを持ってきてくれた。また、私は学校新聞の役割として一般の投稿を重要視していたのであるが、あいにく投稿函には何も入らず、止むを得ずペンネームや実名で自分で投稿者の役もすることにし、わざと挑発的で少々極端な文章を書いたように思う。赤松君や小林君も、それぞれ我々の書けないような原稿を寄せてくれた。いろいろなコラムに私がつけた標題はほとんどが後には廃止されてしまったが、第一面最下段の「瀬江眺望」は長く使用していただくことになったようである。

原稿の段階で部長の平田先生の「検閲」をうけるべきかどうか編集会議で話題になった。「その必要なしとしよう」と私が提案して、そのようになった。「六稜新聞」は発行所が大阪府立北野中学校であり、学生新聞ではなく学校新聞である。平田先生が新聞部の部長であり、先生の名が新聞の編集印刷兼発行人として紙面の始めに明記されている。したがって、ここには本来問題があったかもしれないが、およそこんな点には無頓着でいた。皆で紙面のレイアウトをする時に、西沢君が実にテキパキと素早く処理するのに驚いたことを思い出す。校正は何度か繰り返したように思う。

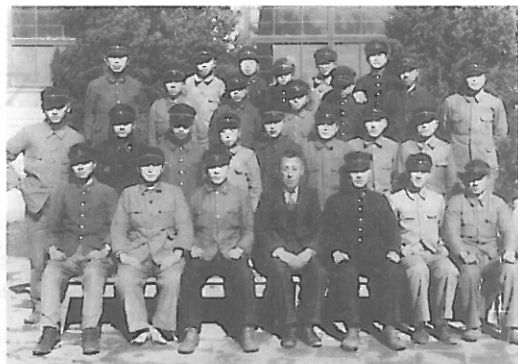
2月1日付で、やっとタブロイド型2頁(1枚)の創刊号

を出して、幸い中学生の新聞としてはと各方面から御好評を得た。第2号をすぐ2月15日に出したように、スタートの時は半月刊の予定であった。発行が学年末にずれてしまったという気持ち、2、3号は出して卒業しておきたいという気持ちに動かされていたのかもしれないが、新聞である以上、日刊や週刊とまではいかずともせめて半月刊ぐらいはという意識があったのだと思う。とにかく刊行が何よりの宣伝効果を生んだらしく、各学年から何人も部員として入部してきた。第2号を出した時、卒業と入試を直前にした我々5年生は、あとは赤松君を中心とする4年生以下の部員に任せることにした。そこで我々の卒業記念ということもあってか、この時点での部員全体で写真を撮ったのが手元に残っていて、総員26名が写っている。

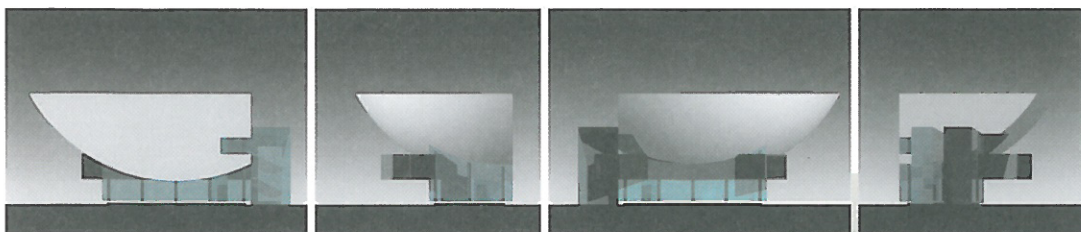
3月8日付発行の、我々の卒業式を中心記事にした第3号(4頁)には、これらの諸君がそれぞれに分担したバラエティに富んだ記事が載せられた。先生方に対するインタビュー取材とか、先生方の御寄稿をいただくとか、学校新聞としてこれまでよりバランスのとれた豊富さをもっているし、時事解説など、より新聞らしい性格も増していたように思う。我々卒業生はこの号を3月3日の卒業式当日に受け取ったと記憶しているが、この日に間に合わせるために赤松君が随分苦心されている様子を当時もらった便りから今思い返すことができる。この第3号発行の前後でまた新しい部員が参加したようである。

【続】

*この文章は六稜新聞創刊50周年に当たる1997年8月に、同窓会事務局の要請に応じて学校史の資料として生島さんにお書き下さりご提出された原稿を編集担当者が要約編集したものです(編)。



●新聞部一同(昭和22年2月15日撮影)



130周年は新会館で

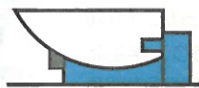
今、十三の地を訪れると初春の空のもと新しい校舎(東半分)が清新な姿を見せています。3月末には一部の施設・教室の移転が行われ、平成12(2000)年度の入学式は新校舎の多目的ホールで行われます。いよいよ北野も新時代に突入するのです。2期工事(校舎西半分など)は12年度から13年度にかけて行われ、14年度に環境整備工事が行われる予定です。この環境整備工事と平行してわれらの新六稜会館建設工事が着工し15年3月には新校舎にふさわしい新しい会館が竣工することになります。この平成15(2003)年はちょうど北野創立130周年にあたります。誠に巡り合わせの妙というべきでしょう。六稜同窓会では校舎改築の計画段階から新六稜会館建設の準備を進めてきましたが、新校舎完成が平成15年になることから新会館建設を「創立130周年事業」ととらえ、これまでの取り組みに一層の弾みを加えて、総力をあげて取り組むことにしました。

すでに新会館のアウトラインについては本誌前号で述べました。その構想の実現に向けて、今年は具体的な行動の年となります。新会館は地下1階、地上3階、建築延べ面積995m²、正門(旧通用門)を入ってすぐ右手、プールの北側に建設されます。費用は同窓会員による募金で賄い、竣工後、大阪府に寄付されます。同窓会では建築工事費を3億円、設備・管理その他費用を5千万円と見積もり、会員による募金の目標額を「3億5千万円以上」と設定しました。会員の皆さんの絶大な協力無くしてはこの事業は成功しません。「130周年に新会館で逢おう!」を合い言葉に、お一人お一人のできる限りのご協力を心よりお願い致します。

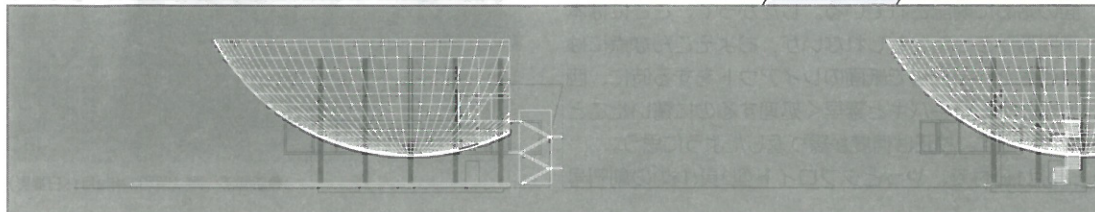
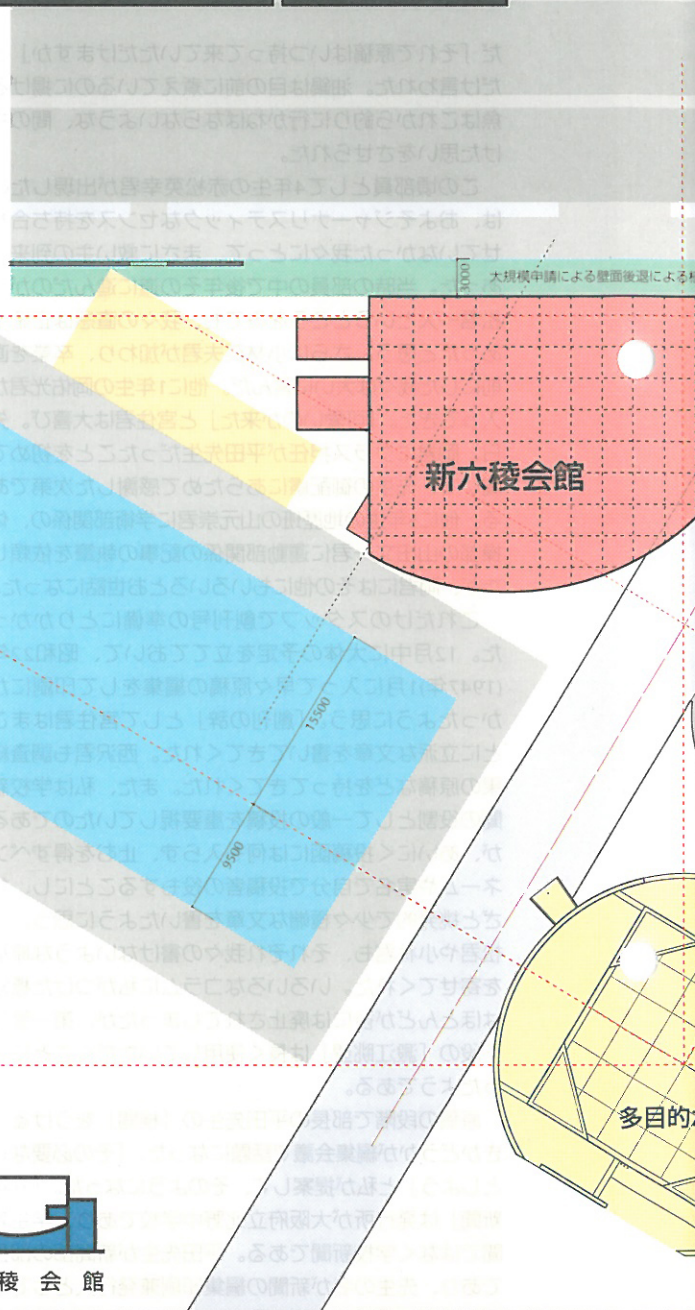
●The Millennium Plan

これが新六稜会館だ

編集部

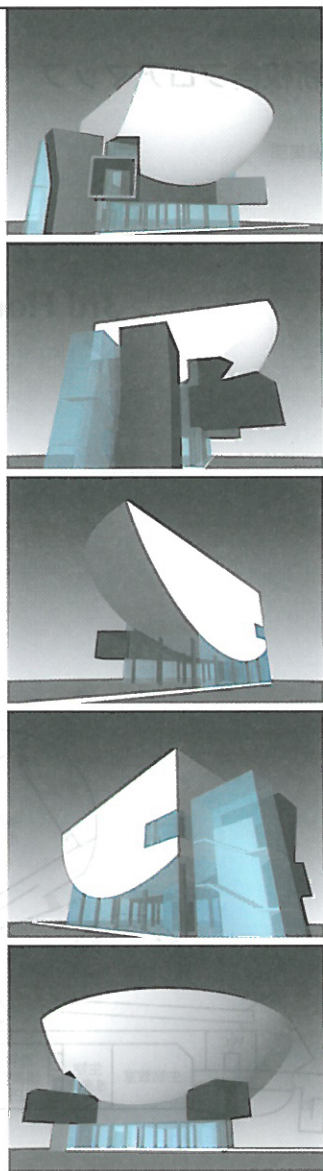
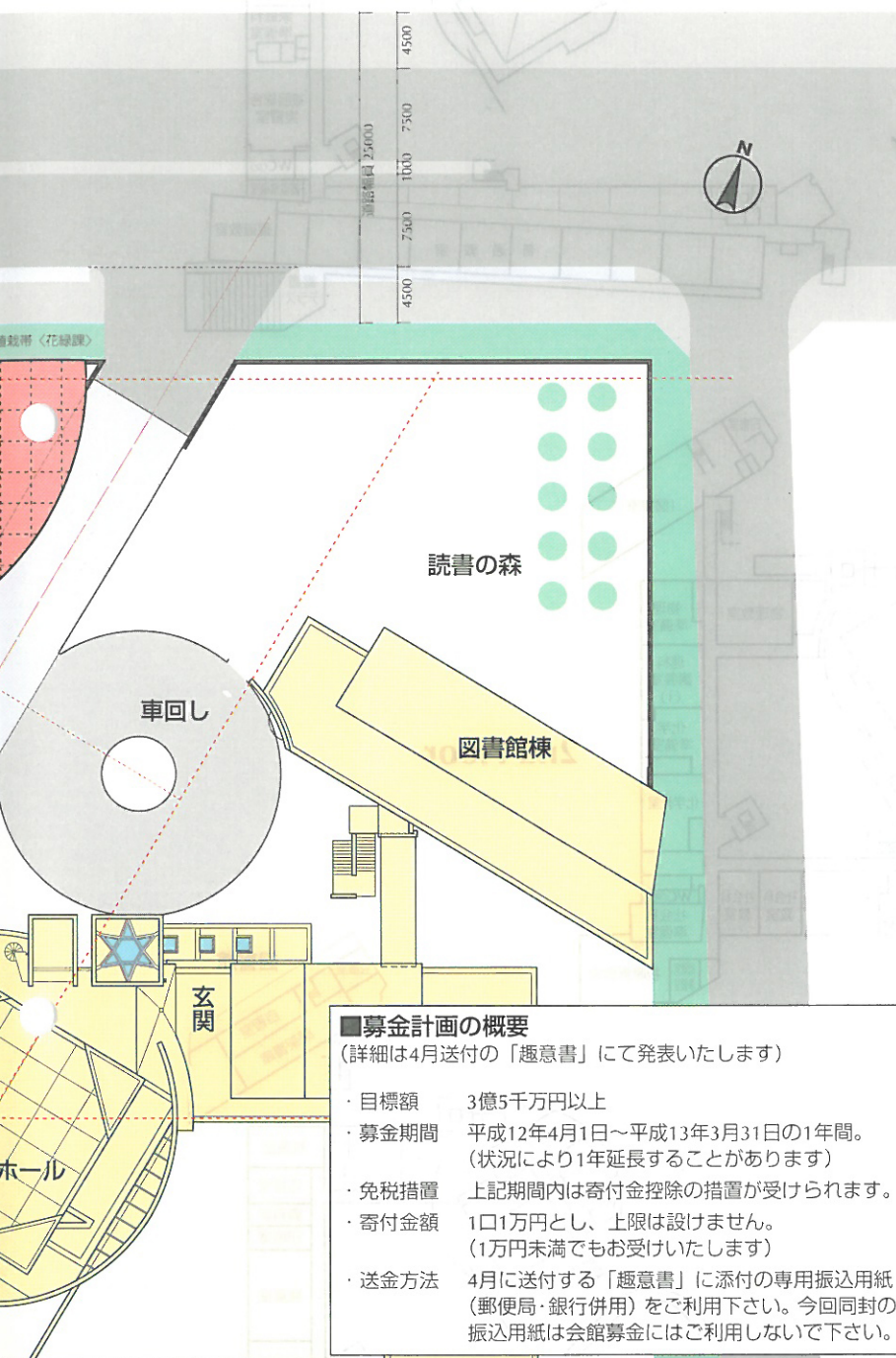


新 六 稜 会 館



※新六稜会館に関する御意見、御感想、御要望等をお待ちしています。

同窓会事務局 気付「新六稜会館・機能検討委員会」宛…
または、電子メール (kaikan@rikuryo.or.jp) でお寄せ下さい。



■募金計画の概要

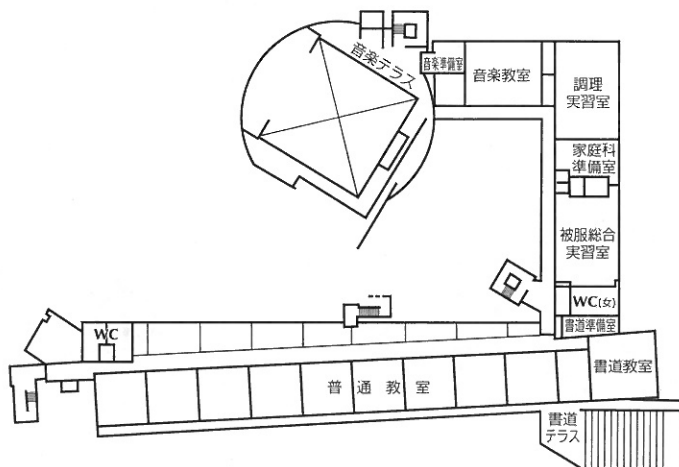
(詳細は4月送付の「趣意書」にて発表いたします)

- ・目標額 3億5千万円以上
- ・募金期間 平成12年4月1日～平成13年3月31日の1年間。
(状況により1年延長することがあります)
- ・免税措置 上記期間内は寄付金控除の措置が受けられます。
- ・寄付金額 1口1万円とし、上限は設けません。
(1万円未満でもお受けいたします)
- ・送金方法 4月に送付する「趣意書」に添付の専用振込用紙
(郵便局・銀行併用) をご利用下さい。今回同封の
振込用紙は会館募金にはご利用しないで下さい。

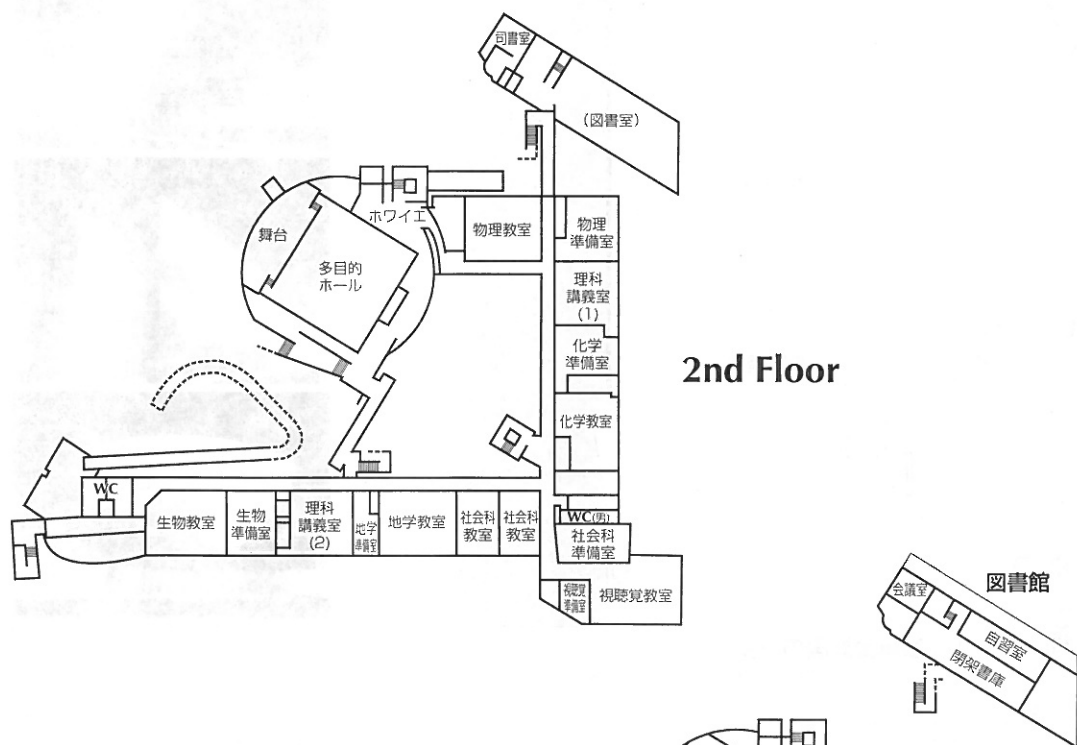
※なお、募金委員会(委員長: 稲畑勝雄・六稜同窓会長) 委員が中心になって各期、クラブOB会、各業種別に協力要請活動を展開しますが、基本は各期であり、各期毎に集約するかたちをとることとします。

また、免税措置に関しては趣意書の中に『寄付に関するQ&A』を添付するとともに、さらに個々の疑問に答える体制を準備いたします。

3rd Floor



2nd Floor



1st Floor



会務報告+会計報告

<http://www.rikuryo.or.jp/office/>

■126周年記念総会(平成11年10月31日)

出席者498名。吹奏楽部の演奏にて開会。
総会の後、新校舎内覧(見学)会。
懇親会は十三サンボードにて。
参加者374名(内有料参加者217名)。
当番期は80期。

■常任理事会(平成11年9月11日)

- ①事務局パソコンLAN体制整備と管理について。
- ②同窓会館建設と募金委員会の構成ないし活動について。
- ③平成11年度(126周年)総会について。
- ④ホームページ運営委員会活動報告。

■常任理事会(平成11年11月13日)

- ①126周年総会報告。
- ②同窓会館建設問題について。建設場所の変更。募金委員会の活動を含めたスケジュールなど。
- ③ホームページ運営委員会活動報告。
- ④その他(常任理事人事、メモリアルグッズとしてのレンガ活用について等)。

六稜WEB運営委員会【出版部】

平成11年『われら六稜人1998』会計報告

科目	決算	備考
●収入の部	円	
1.事前申込(平成11年3月31日まで)	1,404,000	936部
2.追加申込(平成12年1月24日現在)	552,500	386部
収入合計	1,956,500	1,322部

●支出の部	円	
1.編集制作費	0	
2.外注費【CD-ROMプレス】	300,825	
【ブックレット印刷製本】	766,500	初版2,000部
【同梱印刷物】	46,200	
【ブックレット印刷製本】	262,500	第2版1,000部
3.梱包資材費	63,922	
4.配送費【事前申込分】	148,190	
【追加申込分】	61,760	
支出合計	1,649,897	

収支差益	+ 306,603
------	-----------

発行部数	3,000
販売数	1,322
校内配付数	500
謹呈数(取材御礼など)	61
寄贈数(公共図書館など)	0 次回実施予定
在庫数	1,117

以上の通り平成11年六稜WEB運営委員会【出版部】会計報告を致します。

平成12年1月25日

前・六稜WEB運営委員長 壽榮松正信(74期)
六稜WEB運営委員長 小野祐路(76期)

■常任理事会(平成12年1月29日)

- ①同窓会館建設問題について。
- ②ホームページ運営委員会活動報告および六稜出版会設立について。
- ③その他(事務局長人事など)。

母校の国際交流活動に支援を!

本校の国際交流事業は米国ワシントン州シアトル近郊のケント市にあるKentwood高校と「長期休暇を利用した生徒の交流」を柱としています。その他に、クリスマスカードの交換等も実施しています。

90年3月、体育科篠原芳雄教諭(柔道六段・現在阿武野高校勤務)が全国高体連の派遣でKentwood高校を訪問し柔道の指導を行ったことが機縁となり、92年夏に同校の生徒が来校しました。本校生徒宅に2週間ホームステイしながら授業やクラブ活動に参加して日本の高校生活を体験しました。本校からは93年3月に教諭2名が同校を訪問し、94年3月には、生徒の派遣を開始。両校の生徒の交流がスタートしました。

96年には本校の学期制の変更に伴い、Kentwood側が希望する3週間の受入が不可能な事態となりましたが、転勤された篠原先生にお願いし、阿武野高校の協力で3校による交流に発展しました。97年には北野-Kentwoodの姉妹校提携を結び、この交流を実のあるものとすべく校長間で署名がなされました。

近年は、3月に本校からの教諭1名、生徒4名と、阿武野高校からの教諭1名、生徒2名が渡米し、6月には、両校が教諭1名、生徒4名を受け入れ、相互の親睦と理解を深めております。

当初は教員有志による私的な活動を学校が容認する形で始められた交流ですが、その2年後には校内に国際交流担当者会議が設置され、次いで94年には「国際交流基金」の設立により、同窓会の経済的なご支援をいただいております。また、多くの卒業生や保護者の方々からも援助金をいただいております。残念ながら公費による予算化が困難な現状では、この「国際交流基金」が唯一の財源となっております。担当者として感謝申し上げるとともに今後ともより一層のご理解とご支援をお願いする次第です。

2000. 1. 27

国際交流担当主任 井上和彦(体育科教諭)

※国際交流基金への御寄付は随時、同窓会事務局で承っております。御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

六稜NEWS

1999.8→2000.1

(開催日順に掲載)



47期、まだまだ健在！

47期同窓会は、昨年、会長中林克巳氏の死去で世話役を失いましたが、本年、春、同窓の集いを希望され、高木隆氏を中心に再会を企て、ようやく10月26日、同期の森三郎氏の肝いりで森産業株式会社本社(堺市本町)で会合を催しました。80歳を越え高齢のため病に臥せる人も多くありましたが、一応、楽しい一刻を過ごしました。次回は平成12年5月18日、帝国ホテル吉兆で開催の予定をしています。母校の発展を祈っています。

(大川信也、47期)

六稜広島支部、発足！

六稜MLを通じて所在を確認しあった広島在住者4名で、この度、広島支部(?)の集まりを持つことになりました。とにかく4人ともお互いの顔を知らないの、集合場所ですうまく集まれるかどうか心配でしたが、予定通り集合できました(何とかなるものですね)。

また、卒業年度もかなり開いているので話題に困るのではと心配していましたが、高校時代の話それぞれに話し始めると「その先生に習ったことがある」など…結構、共通の話題も見付き盛り上がりしました。ちなみに高校時代には、小野さんは美術部、佐々木さんは放送部、私は山岳部に所



●左から、玉木まよさん(65期*)、佐々木晋也さん(102期)、小野健史さん(74期)、末広(84期)

属しておりました。また玉木さんは新制高校になったの1期生というお話も伺うことが出来ました。ちなみに、玉木さんは息子さんが北野の卒業生で、佐々木さんよりちょっと年上だそうです。また、小野さんも佐々木さんも奥さんが北野の卒業生ということでした。今回は残念ながら出席いただけませんでしたが、次回からは出席していただけそうです。これをご覧になられた六稜の皆さん。広島の方へ転勤する機会がございましたら、ぜひ末広までご連絡ください。

今回の予定はまだ決まっておりませんが、これを機会に出来るだけ定期的に集まろうと考えております。よろしく願います。(末広一裕、84期)



がんばれ廣瀬君、アジアユース大会出場決定！

以前、六稜News990909でも伝えられた廣瀬俊朗君(3年/ラグビー部)が、U19日本代表選手としてアジアユース大会に出場することが決定した。

昭和62年～63年にかけて、六稜を狂喜させた花園フィーバー以来の快挙が、この廣瀬君によって為されたといえる。同君は、今秋の国民体育大会大阪府代表(スタンドオフ)に選抜され、少年の部で優勝を果たした立役者であるが、今回12月11日から台湾(高雄)で行われるU19アジア・ラグビーフットボールトーナメントの日本代表選手に選ばれたもの。壮途を祝って、12日昼休み時に、校長室にて同君に対する六稜同窓会からの「出場激励金」の授与式が、自見前監督、小森教頭、太田、鎌田先生、同窓会関係者列席の下行われた。

(山元一夫、64期)

※アジアユース大会は19歳以下の各国代表選手によって戦われるもので、

(A) 日本、台湾、シンガポール、マレーシア

(B) 韓国、香港、タイ、スリランカ

の各プールで総当たり戦、次いで各プール同順位同士の対戦で優勝者を決めるもの。

【追記】日本代表チームが見事優勝を果たしました(鎌田)。



タイムカプセル水浸し

今から15年前の1985年。母校の創立112周年を記念して旧制北野中学の碑が、当時校舎のあった北区芝田2丁目（現在は済生会中津病院）に有志の手で建立された。石碑の下には、当時の名簿や想い出の学帽などがニューセラミック製のタイムカプセルに詰め込まれて埋蔵されていた。

今回、中津病院の増築工事に伴って、石碑を一時移設せねばならなくなり、15年振りの「記憶」が掘り起こされることとなった。カプセルの中には永年の雨露がどこからともなく沁み込んだと見え、貴重な史料はすべて水浸しの惨禍にさらされていた。



今後、同様な「タイムカプセル」を企てている諸氏には、ぜひとも万全の防水対策を講じていただきたいと思う。

なお、今回の史料は…目下、山元事務局長の手で乾燥できるものは乾燥し、交換できるものは交換して…再び、しばらくの眠りに戻っていただく予定となっている。（谷 卓司、98期）

百歳を迎えられた村上正己先生

私の手許に『デモシカ先生奮闘記』（昭和47年、青葉図書）という本がある。この著者こそ我が恩師村上正己先生である。

私は昭和14年に北野中学校に入学し1年1組になった。担任は長身でスマート、眼鏡をかけた村上先生だった。先生には代数を教えていただいたが、そのことは数学が苦手な私を入学当初からびびらせた。しかし、生活面でも数学でも大きな叱責を蒙った記憶はない。これは私が比較的素直な生徒であったということではなく、先生が懐の深い温かいお人柄であったからにほかならない。私は学窓を巣立ってから教育界に身を置いた。いつも

「良き師たらん」と自らに鞭打ってきたつもりであるが、思えばいつも村上先生のお姿を追いかけてきた気がする。決して口数の多い方ではなかったが、いつも物事をきちんと的確に押さえておられたし、講義のあちこちでの適当なジョークも、私たちの笑い声と共に思い出されてくる。

村上先生と過ごした年月は短かったが、最後の5年生の一年を、制服の左襟の北中のバッチのさらに左に黄色い丸い台座の上に六稜の星の載ったバッジを付けた兵器委員としてがんばることのできたことが、村上先生に捧げ得る私の数少ない思い出である。

村上先生はこの1月28日にめでたく百歳をお迎えになられた。先生にはさらに饗樂として好き日々をお過ごしくださることを祈ってやみません。

（大曾克弘、57期）



※本誌33号「母校の窓」計報欄に誤って村上正己先生のお名前を掲載してしまいました。先生をはじめとして多くの方に大変ご迷惑をおかけいたしましたこと、心よりお詫言申し上げます。村上先生は百歳の今も大変お元気です。近い内に六稜WEBの「恩師を訪ねて」にご登場いただく予定です（編）

※同期会など六稜関連のイベント情報は…

同窓会事務局(Tel.06-6306-0374：月・水・金/Fax.06-6306-1335)または、電子メール「info@rikuryo.or.jp」宛にお知らせ下さい。六稜WEB(ホームページ)「Info欄」で告知させて戴きます。また、開催後も会の模様をレポートしてください。六稜WEB「News欄」に反映させて戴きます（紙面の限り、本欄にも掲載いたします）。

10組20名様に展覧会チケットPRESENT!!

提供：酒ミュージアム（白鹿記念酒造博物館）
〒662-0926西宮市鞍掛町8-21 Tel.0798-33-0008

平成12年春季展-笹部さくらコレクション-「桜のあるくらし」

期 間：平成12年3月11日（土）～5月14日（日）

休 館 日：毎週火曜日（祝日の場合、翌日休館）

開館時間：10時～17時（入館は16時30分まで）

※住所・氏名・卒業期を明記のうえ、同窓会事務局までお申込下さい。電子メール「present@rikuryo.or.jp」も可。先着順。



母校の窓

■おわび

前号『六稜会報No.33』の本欄で村上正巳先生(数学,S11~14)の訃報記事を誤って掲載いたしました。先生はご健在で本年1月に満100歳を迎えられました。ご本人および関係の方々には重々おわび申し上げ御寛恕いただいておりますが、改めてこの場をお借りしましてお詫び申し上げますとともに訂正させて頂きたいと思ひます。

■御不幸

水落和沖先生(社会,S33~57)が昨年9月
浅田弘治先生(理科,S38~H9)が昨年11月
吉田孝司先生(61期、理科,S34~50)が
昨年11月にお亡くなりになりました。
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

■全国大会出場激励金

平成11年度(9月以降の分)

・近畿高等学校柔道体重別選手権大会

[78kg超級]

千須和直美(柔道部2年)

・近畿高等学校バドミントン選手権大会

[男子ダブルス]

井上龍太郎・朝田高志

(バドミントン部2年)

・近畿高等学校テニス大会

[シングルの部]

岡内賢太(テニス部2年)

[ダブルスの部]

岡内賢太・富永悠(テニス部2年)

※以上の団体・個人に、規定に従って
激励金が授与されました。

なお、

・第54回国体(大阪府代表選抜)出場

・アジアユース大会(U19日本代表)出場

広瀬俊朗(ラグビー部3年)

に際しても、規定に準じて激励金が授
与されました。

ありがとうございました。

■文化芸術祭開かれる

従来6月に実施されていた文化祭が本
年度から、文化部・クラス・一般有志
の発表を中心とする「六稜祭」(6月)と、
文化部・教科の発表を中心とする「文
化芸術祭」(2月)に分けて実施されるこ
とになった。第1回文化芸術祭は2/5~
2/9まで本校で展示発表、2/5には豊中
市民会館で舞台発表が行われたが、そ
れに先立って竹山聖(85期、京都大学工
学部助教授)氏による記念講演が行わ
れ、設計原案者として新校舎設計に寄
せる熱い思いが語られた。

■クラブだより

.....運動部(50音順)

【応援部】現在部員0。休部状態で廃部の
危機に瀕している。夏の高校野球府予選
などの応援は野球部員有志、体育大会の
クラブ行進の折りの応援披露は運動部キ
ャプテンの協力によって継続されている。
応援部の復活はひとえに運動部の躍
進にかかっている。

【剣道部】

[大阪総合体育大会]

【団体】男子 1回戦敗退

【団体】女子 1回戦敗退

[Aブロック大会]

【団体】男子 2回戦敗退

【団体】女子 1回戦敗退

【個人】男子 ベスト4

【硬式野球部】

[秋季大会]

2回戦(8/29) ○ 11-3 平野

3回戦(9/19) ○ 8-1 守口東

4回戦(9/26) ● 1-6 興国

[三校リーグ] ● 2-12 八尾

● 0-4 市岡

【サッカー部】

[天王寺高校定期戦]

現役戦 ○ 4-0

[秋季大会]

1回戦 ○ 22-0 能勢

2回戦 ● 0-2 布施

【山岳部】

[秋季登山大会]

A隊3位、B隊1位、総合1位

【柔道部】2年男子、初段合格(2人)

[大阪市北地区大会](10/31)

男子団体 2回戦敗退

男子個人 2回戦敗退

女子個人 準決勝進出

[大阪高等学校新人柔道大会](1999.11)

2回戦敗退

[全国高等学校女子柔道予選](1999.11)

体重別 準優勝

【水泳部】

[新人戦](9月、於：大阪プール)

男子・100mバタフライ 決勝8位(入賞)

【ソフトボール部】

[部別大会(3部)](9/19、26、10/10)

○ 7-0 追手門(5回コールド)

○ 18-1 大冠(3回コールド)

● 3-9 箕面
[第1学区大会](11/7、13、14)

● 2-9 箕面

○ 6-1 渋谷

○ 7-0 刀根山

● 4-6 豊中

○ 4-1 少路・東豊中

3勝2敗 第3位

【卓球部】

[大阪新人卓球大会]

ダブルス ベスト32

学校対抗 2回戦

【女子テニス部】

[大阪ジュニア]

ダブルス ベスト32(1組)

[大阪高校春季テニス大会]

シングルス 本選出場(1名)

[夏季大阪高校初級者大会](旧大阪オープン)

シングルス ベスト64(2名)

[秋季赤坂杯]

シングルス ベスト8(2名)

ベスト32(1名)

ダブルス ベスト24(1組)

[定期戦] 2-3 天王寺

【男子テニス部】

[公立高校団体] 本戦出場

[大阪高校総体] 本戦

シングルス ベスト16

ダブルス ベスト16

※ともに近畿大会出場

[サマージュニア] 本戦

シングルス ベスト16

ダブルス ベスト32

[近畿大会]

シングルス ベスト32

ダブルス 出場

[秋季団体] 本戦出場

[赤坂杯(秋)]

シングルス 準優勝

ダブルス 準優勝

[関西ジュニア選抜]

シングルス ベスト32

[天王寺定期戦] ○ 5-1 天王寺

【女子バスケットボール部】

[大阪高校総体地区予選]

1回戦(8/13) ● 40-52 北千里

[北地区公立大会] 予選リーグ敗退

[天王寺高校定期戦](11/14)

○ 88-53

[新人戦地区予選](1/9~)

1回戦 ○ 70-37 池田北

2回戦 ○ 68-33 島上

【男子バスケットボール部】

[大阪高校総体]

1回戦(8/12) ○ 83-61 関西大倉

2回戦(8/13) ○ 83-47 渋谷

3回戦(8/14) ● 51-72 星翔

[天高戦](11/14)

● 65-71 天王寺

[北地区公立大会](10月~11/23)

6戦全勝でブロック優勝
決勝リーグ ○ 54-38 箕面
● 45-67 千里
順位決定戦 ● 77-83 福井
総合4位
[大阪強化リーグ] (12/27、28)
6戦全勝

【バドミントン部】

[第54回大阪高等学校総合体育大会]
学校対抗の部 男子ベスト8
男子シングルス1部 ベスト16
男子ダブルス ベスト16

【女子バレーボール部】

[府立高大会]

- 0-2 刀根山
- 0-2 春日丘
- 0-2 阿武野

[秋季部別大会]

- 1-2 大東
- 2-0 門真南
- 0-2 清友

【男子バレーボール部】

[大阪府立大会]

- 1-2 高槻南
- 0-2 高槻北
- 1-2 刀根山

[秋季部別] (新人大大会第1次予選)

- 1-2 旭
- 0-2 桜宮
- 0-2 茨木 (3部降格)

【ラグビー部】

[大阪総合体育大会] (春季大会)

- 1回戦 シード
- 2回戦 ○ 24-7 刀根山
- 3回戦 ● 5-37 同志社香里

[全国大会] 大阪府予選

- 1回戦(9/19) ○ 22-19 太成
- 2回戦(10/31) ○ 80-5 大商学園
- 準々決勝(11/7) ● 14-40 島本

【陸上競技部】

[インターハイ大阪大会]

- 男子 4×400mR 準決勝進出
- 女子 4×100mR 準決勝進出

[大阪総体]

- 2年男子 走幅跳 決勝4位 6m58
- 三段跳 決勝4位 13m65
- 4×400mR 準決勝進出

- 1年男子 800m走 準決勝進出
- 110mH 準決勝進出

- 2年女子 400m走 決勝進出 62"17
- 4×100mR 準決勝進出

- 1年女子 4×100mR 準決勝進出

[大阪ジュニア]

- 男子三段跳 決勝4位 13m60
- 女子400m走 決勝3位 61"47

.....文化祭・同好会(50音順)

【囲碁将棋部】

[第23回大阪府高等学校囲碁選手権] (5/8-9)

団体戦の部【男子】優勝(大阪府代表)

個人戦の部【男子】優勝(大阪府代表)

[第23回全国高等学校総合文化祭] 囲碁部門(8/2-3)

【個人戦】21位

[第23回高等学校囲碁選手権] (8/18-19)

【団体戦の部】1回戦敗退

【個人戦の部】2回戦敗退

[第19回近畿高等学校総合文化祭] 囲碁部門(11/13-14)

【団体戦の部】出場

【個人戦の部】出場

【ESS部】2年生の女子1名が、11月に行われた『第39回大阪府高等学校英語暗唱弁論大会』の弁論の部に出場しました。

【園芸同好会】昨年も6月の文化祭では例年どおり苗などの販売を行い、売上金は「北野高校緑の基金」の一部とさせていただきます。現在校舎改築工事で緑が失われていくことに心を痛めておりますが、新校舎周辺に1本でも多くの緑をという願いを込めました。改築着工の直前に球根を掘上げ移植したハナニラは順調に育っています。今年の秋には、これらを新校舎周辺の適当な場所へ植えることを考えています。現在3年生以外の部員がいない状態です。昨年秋の球根の植付けは園芸好きの先生方や1年生の有志の手で行われました。新入部員を心待ちにしているところです。

【演劇部】毎週、火・木曜日に活動中。現在、部員は1年生4名、2年生11名、計15名です。6月の六稜祭では公演予定。是非見にいらしてください。

【オーケストラ部】

夏季合宿(1999.7/30～8/2)

第1ブロック音楽会(1999.11/17)

【化学研究部】現在部員は1年生3人、3年生2人の計5人で、各自自分の興味のある実験をしています。文化祭の実験は参加した「おもしろ科学の祭典」で好評だった「ちぎひプラスチック・ブラバン」やシャボン玉などをしたり毎年恒例の液体窒素などをしました。

【コーラス部】

大阪府立高校音楽会(1999.2)

新入生歓迎演奏会(1999.4)

六稜祭(1999.6)

【新聞部】2月の文化芸術祭にはバックナンバーの展示、特集号の発行という形で新聞部も参加します。2000年代の幕開け...我が新聞部も心機一転、少しでも良い新聞を作るため頑張りたいと思います! 読んでみたい方は部室まで。

【吹奏楽部】

10月 体育大会(入場行進、ファンファーレ演奏)
六稜同窓会総会にて演奏

11月 第1ブロック音楽会
(大阪音楽大学・カレッジオペラハウス)
指導者講習会モデルバンド

【放送部】

文化芸術祭のアナウンス(2/5予定)。

【美術部】12月17日に佐伯祐三の特集でテレビ朝日から取材を受ける。佐伯祐三作「ノートルダム マントラジョリ」と一緒に美術部員もテレビ出演!

※2000年2月25日(金) 9:35～10:30放送予定

ブロック展(1999.1/24～31)

芸文祭コンクール展(1999.2/4～7)

新入生歓迎部展(1999.5/11～30)

六稜祭(1999.6/13)

高校展(1999.8月末)

■編集後記

前号で予告しましたように、会報が年2回の発行になりました。新しい校舎に新しい同窓会館、そこで広がる新しい同窓会活動...もはや昔を懐かしむだけの同窓会ではなく、外に向かった「情報発信型」の新しいコミュニティとしての同窓会を目指しています。

4月から始まる募金へのご協力もよろしくお願いします。その前に、年会費の未納入の方...同封の振込用紙でご送金のほど、お願いいたします(笑)。
※なお、今回の振込用紙は、会館募金には使えませんので、何とぞ4月までお待ちください。.....(編)

六稜イエローページ

※これらのアドレスは予告無く変更されることがあります。

六稜関連の催し物の情報提供は...

info@rikuryo.or.jp

六稜WEBへのご意見、ご感想は...

voice@rikuryo.or.jp

六稜WEBへのリンクをご希望の方は...

link@rikuryo.or.jp

六稜WEBに関する技術的なご質問は...

tech@rikuryo.or.jp

六稜WEBの著作権に関するご質問は...

kenri@rikuryo.or.jp

その他、六稜WEBへの苦情・ご要望等は...

webmaster@rikuryo.or.jp

WEB運営委員会(委員長)へのご意見は...

iinkai@rikuryo.or.jp

同窓会事務局へのお問い合わせは...

office@rikuryo.or.jp

東京六稜会へのお問い合わせは...

tokyo@rikuryo.or.jp

六稜MLに関するご質問、お問い合わせは...

MLsupport@rikuryo.or.jp

住所・勤務先・姓名等の変更通知は...

meibo@rikuryo.or.jp

同窓会名簿に関するお問い合わせは...

meibo@rikuryo.or.jp

六稜Museumに関するお問い合わせは...

museum@rikuryo.or.jp

六稜購買部に関するお問い合わせは...

shop@rikuryo.or.jp

校舎改築に関するお問い合わせは...

kaichiku@rikuryo.or.jp

定点観測隊への励ましのメールは...

kaichiku@rikuryo.or.jp

六稜セミナーに関するお問い合わせは...

workshop@rikuryo.or.jp

好評連載中!!

六稜WEB
since1997

われら六稜人

題字：森繁久彌氏



<http://www.rikuryo.or.jp/rikuryojin.html>



【第23回】1999年8月掲載

琉球の大地に生きて

上山和男さん(70期)、弘子さん(76期)

第1畝：青春は動乱の中で…

第2畝：農業人への回帰

第3畝：藍こそ豊かさの証明

第4畝：二人にとっての北野

第5畝：もうひとつのサミット

附 録：六稜WEB総力取材

「琉球藍染、徹底解剖」



【第24回】1999年9月掲載

医療NGOから見たコンボ

佐藤義基さん(73期)

第1章：紛争の地、コンボへ…

第2章：州都プリスチナを経てベア市へ

第3章：NGOの支援合戦

第4章：コンボ第2の都市ベア

第5章：コンボの医療事情

第6章：ベア郊外の村バラニ



【第25回】1999年10月掲載

プロスポーツの舞台裏で

乾 勲さん(70期)

ウーミング：じゃんけんが決めた人生?!

前半戦：ショービジネスとしての課題…

ハーフタイム：ガンバ社長に直撃!!

～サッカー少年、8つの疑問

後半戦：敵はジュビロかプロ野球か…

P K 戦：Jリーグ100年構想



【第26回】1999年11月掲載

科学を志す人のために

早石 修さん(50期)

第1研究室：恩師に学んだ教育の姿勢

第2研究室：大学の選び方…

第3研究室：握り飯より柿の種?

第4研究室：焼跡で始めた生涯の研究

第5研究室：WHATではなくてHOW

第6研究室：ランチセミナーの効用

第7研究室：研究は探偵小説?!

第8研究室：睡眠に賭けた第二の人生

第9研究室：研究の本質

第10研究室：研究者の向き/不向き



【第27回】1999年12月掲載

ある音楽家の生涯

野口藤三郎さん(53期)

第1楽章：生粋の十三っ子

第2楽章：音楽に明け暮れた北中時代

第3楽章：そして誰もいなくなった?!

第4楽章：さようなら、北中時代

第5楽章：大学でも音楽三昧

第6楽章：そして「海軍」へ…

第7楽章：航海術と水測術

第8楽章：日本軍の最終兵器

第9楽章：あっけない終戦

第10楽章：師弟の絆というもの

第11楽章：演奏家から楽団主へ

第12楽章：アメリカという国

第13楽章：120周年「第九」後日談

『われら六稜人1999』

A5版、192ページ【CD-ROM*付】

¥1,500 (送料込み)

ISBN4-947764-07-4 C0023 ¥1500E

ISBN4-947764-08-2 C0802 ¥0000E

六稜WEB(ホームページ)で好評連載中の同名のシリーズを
活字化した『われら六稜人』。その第2弾「1999年版」が遂に
刊行します。また、今年の附録CD-ROMは「音楽CD」として
もお楽しみいただけるようになりました(校歌「六稜の星の
しるしを」特集と題して3曲を採録。カラオケ含む)。

お申し込みは、同封の郵便振替用紙をご利用ください。なお
発送は3月中旬を予定しています。第1弾「1998年版」も在庫
の限り頒布いたします。まだの方は、この機会に2冊まとめ
て御注文ください。



*附録CD-ROMは先着1,000部限りの限定プレスとなります。また、
上記のデザインは一部変更することがあります。ご了承ください。

六稜会報
No.34

発行日 平成12年2月15日

発行者 稲畑勝雄

編集委員 岸田知子・鎌田俊一
寺井あかね・谷 卓司

発行 六稜同窓会 <http://www.rikuryo.or.jp/>

〒532-0025 大阪市淀川区新北野2-5-13 府立北野高校内

phone.06-6306-0374 fax.06-6306-1335

e-mail.office@rikuryo.or.jp

郵便振替.00990-4-68025 (名簿申込専用 00910-7-309004)

事務局 月・水・金(祝日は休) 10:00~17:00 北野高校 第2新館2F

デザイン 有限会社ティアンドティ・デザインラボ

<http://www.tdesign.co.jp/>

〒530-0041 大阪市北区天神橋3-6-4 鶴屋ビル3F

phone.06-6882-0512 fax.06-6242-0833

印刷 ナカモリ印刷

〒553-0003 大阪市福島区福島4-6-2-307

phone.06-6442-3228 fax.06-6442-3229